

2015年版に対応した効率運用のための

# QMS・EMS 統合マネジメントシステム 実践セミナー

～2015年版規格に対応した統合マニュアル作成のポイントを実践的に習得～

本セミナーは、  
右記の疑問に  
お答えします

- 2015年版ISO9001とISO14001の共通点と相違点は何か？
- 規格改訂に対応して自社のQMS・EMSをどのように変えなければならないのか？
- 品質マニュアルと環境マニュアルを統合したいが、どのように進めたらよいのか？
- 品質内部監査と環境内部監査を別々に実施しているが、どのように統合内部監査を実施すればよいのか？

## プログラムのねらい

2015年版規格に対応した統合マネジメントシステムを運用するにあたっては、下記事項がポイントとなります。

- ① 各種マネジメントシステム規格の“骨格”である「MSS共通テキスト」に沿って改訂された両規格の共通点と相違点を把握する必要がある。
- ② 統合マニュアルでは、QMSとEMSの共通事項の書き方、また両規格の固有事項をどのように書き分けたらよいのかを理解する必要がある。
- ③ “文書化した情報の維持”の要求がない事項についても、他の要求事項への対応で、実質的には文書化が必要な事項があり、QMS・EMSの有効性向上や管理の徹底のための必要性の判断が求められる。

“統合マネジメントシステムの運用促進”は、2015年版改訂規格の重要なねらいです。本セミナーでは、2015年版に対応したQMS・EMS効率運用のためのポイントを、実践的に理解していただくことをねらいとしています。

## 対 象

- ① ISO9001/ISO14001:2015規格への移行を予定している組織の管理責任者、事務局
- ② ISO9001/ISO14001:2015規格へ移行済で、(品質・環境)統合マニュアル化を検討している組織の管理責任者、事務局

## 会 期

2017年11月27日(月) 10:00～17:00

## 会 場

日本能率協会 研修室 (東京 千代田区 一ツ橋)

## 講 師

宮澤 武 一般社団法人日本能率協会 QMS・EMS主任登録講師

## プログラム

(昼食12:00～13:00)

10:00	<p><b>1. ISO9001 / ISO14001: 2015改訂の概要</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 規格改訂のポイント</li> <li>② 旧規格からの変更及び追加要求事項</li> <li>③ 両規格の共通要求事項と固有要求事項</li> </ol> <p><b>2. 統合マネジメントシステムの文書化にあたってのポイント</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各規格ではどのような“文書化した情報の維持、保持”要求があるか</li> <li>② 文書化要求はないが、実質的に文書化が必要な要求事項とは</li> </ol> <p><b>3. 箇条4→箇条6の規格要求事項概説と統合化のポイント</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 箇条4→箇条6のねらいと要求事項理解のポイント</li> <li>② 統合マニュアル作成にあたってのポイント</li> <li>③ 統合マニュアル例の解説</li> </ol>	<p><b>4. 箇条7→箇条8の規格要求事項概説と統合化のポイント</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 箇条7→箇条8のねらいと要求事項理解のポイント</li> <li>② 統合マニュアル作成にあたってのポイント</li> <li>③ 統合マニュアル例の解説</li> </ol> <p><b>5. 箇条9→箇条10の規格要求事項概説と統合化のポイント</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 箇条9→箇条10のねらいと要求事項理解のポイント</li> <li>② 統合マニュアル作成にあたってのポイント</li> <li>③ 統合マニュアル例の解説</li> </ol> <p><b>6. 統合内部監査の実施にあたって</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 統合内部監査規定の作成ポイント</li> <li>② 統合内部監査チェックリストの作成ポイント</li> </ol>
17:00		

※プログラム内容は、変更される場合があります。

